

【目的】二世帯住居の役割は親夫婦と子供夫婦の暖かい心の交流を作り出すことである。したがって、二世帯住居の設計原案を作成するためには二世帯住居における親夫婦と子供夫婦の交流を研究する必要がある。本論は、平成3年における駒澤大学苫小牧短期大学の2年生の女子学生（57名）が希望する「二世帯住居における親夫婦との交流」を導く。

【方法】本論は、女子学生（57名）が記載した作文『二世帯住居の留意点』にもとづく。本論は団欒を合同型団欒と分離型団欒に分類し、食生活を合同型食生活と分離型食生活に分類し、扶助を相互扶助と親夫婦への扶助と親夫婦からの扶助に分類する。また、本論は彼女たち（57名）が希望する二世帯住居の形式として同じ役割の空間を2つ設置することを取り扱う。そして、本論は彼女たち（57名）が希望する「二世帯住居における団欒形式と食生活の形式と扶助形式」と「二世帯住居の形式」をもとに、彼女たち（57名）が希望する「二世帯住居における親夫婦との交流」の傾向を導く。

【結果】彼女たち（57名）のなかで、二世帯住居における親夫婦との交流を希望する者及び基本的に親夫婦と分離した生活を希望する者は多く、合同型食生活の希望者は少ない。二世帯住居における親夫婦との交流を希望する者のほとんどは合同型団欒または親夫婦との扶助関係を希望している。二世帯住居で同じ役割の空間を2つ設置することを希望する者のなかで、玄関または台所を2つ設置することを希望する者が多い。したがって、彼女たち（57名）は二世帯住居において基本的に親夫婦と分離して生活しながら親夫婦と合同型団欒または扶助関係による交流を希望する傾向がある。